

水稻品種「こいむすび」の栽培法 1) 施肥法

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成11年奨励品種に採用した晩生品種「こいむすび」の高品質米を安定生産するための施肥法について、目安が得られたので普及技術とする。

2 普及技術

- 1) 基肥窒素量は「ひとめぼれ」と同程度とする。多肥は、タンパク質含有率及び倒伏程度が高まるため避ける。
- 2) 追肥は、a 当たり窒素0.2kg程度を幼穂形成期に1回施用を標準とする。

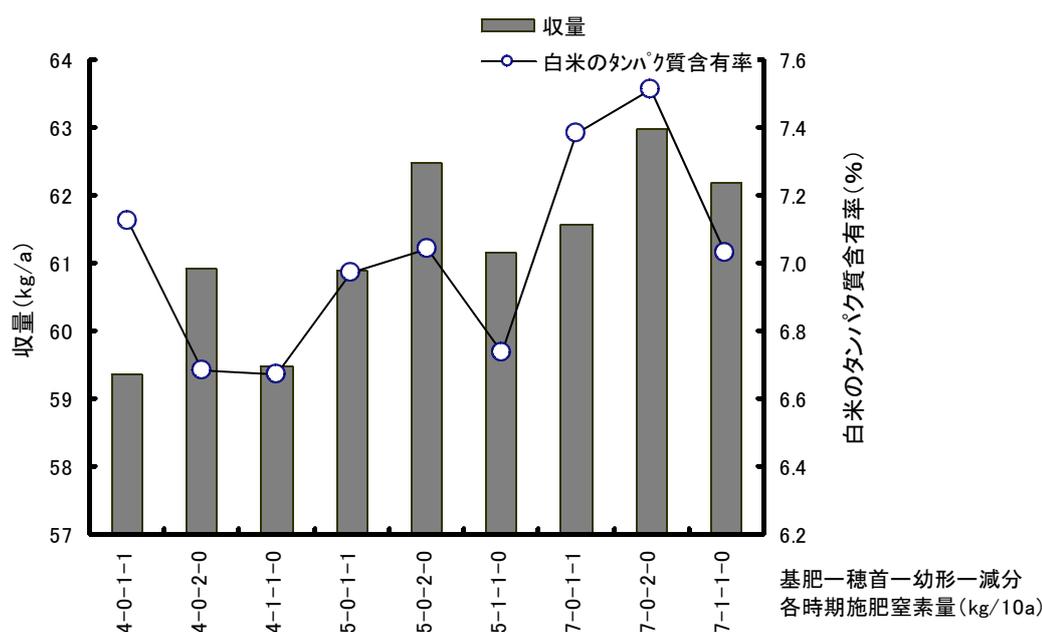


図1 施肥法と収量及び白米タンパク質含有率

試験年次: 平成11年
土壌型: 灰色土壌粘土マンガン型

3 利活用の留意点

- 1) 7月の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ濃く経過するが、幼穂形成期頃で比較すると差は小さい。
- 2) その他の管理は「ひとめぼれ」に準ずる。

(問い合わせ先: 古川農業試験場栽培部 電話0229-26-5106)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新品種栽培法の早期確立

平成10～11年

2) 参考データ

- a 基肥量は多肥 (0.7kg/a) でやや増収効果が見られたが、耐倒伏性を弱めることとタンパク質含有率が高まる傾向にあることから、「ひとめぼれ」程度が適当と思われた (図1)。
- b 追肥は、幼穂形成期に窒素0.2kg/aを1回、または穂首分化期と幼穂形成期に窒素0.1kg/aを各1回のいずれかが適当とみられたが (図1)、穂首分化期の追肥では倒伏しやすくなること (表1) から、幼穂形成期に窒素0.2kg/aを1回施用が適当と思われた。
- c 最高分けつ期から穂揃期までの葉色は、「ひとめぼれ」に比べ濃く経過し、葉身窒素濃度は低く経過した (表2)。

表1 こいむすびの収量構成要素

NO	区名 ^{※1}	倒伏	精玄米重 ^{※2}	穂数	一穂	m ² 当	登熟	千粒重 ^{※3}	外観 ^{※4}
		程度 (0~4)	>1.8mm (kg/a)	(本/m ²)	粒数 (粒)	粒数 (百粒)	歩合 (%)	>1.8mm (g)	品質
1	4-0-1-1	0.0	59.3	472	71.3	336	77.1	22.9	上下
2	4-0-2-0	0.1	60.9	418	71.2	298	89.9	22.7	上下
3	4-1-1-0	0.2	59.5	462	70.9	327	80.3	22.6	上下
4	5-0-1-1	0.4	60.9	463	71.4	330	79.8	23.1	中上
5	5-0-2-0	0.4	62.5	461	74.1	341	81.0	22.6	上下
6	5-1-1-0	0.9	61.1	503	71.2	358	75.8	22.5	上下
7	ひとめぼれ	0.5	58.4	526	57.2	301	84.4	23.0	上中
8	7-0-1-1	1.2	61.6	508	74.4	378	71.4	22.8	中上
9	7-0-2-0	1.5	63.0	546	68.0	371	75.1	22.6	上下
10	7-1-1-0	1.8	62.2	577	69.2	400	69.6	22.4	上下

注) ※1 基肥一穂首一幼形一減分の各時期施肥窒素量(kg/10a), ひとめぼれは5-0-1-1

※2,3 水分15.5%換算

※4 外観品質は上上～下下の9段階評価

試験年次:平成11年

表2 葉色と葉身窒素濃度の推移

NO	試験区名	7月9日		7月22日		7月27日		8月11日	
		葉色 (GM)	葉身N (%)	葉色 (GM)	葉身N (%)	葉色 (GM)	葉身N (%)	葉色 (GM)	葉身N (%)
1	4-0-1-1	40.8	3.01	34.8	2.02	35.2	2.15	33.2	1.87
2	4-0-2-0	42.3	2.48	35.9	1.96	36.3	2.42	33.5	2.27
3	4-1-1-0	39.2	2.29	34.2	1.98	35.2	2.40	32.7	2.25
4	5-0-1-1	41.2	3.23	36.5	1.91	36.7	2.31	35.5	2.12
5	5-0-2-0	43.9	3.27	37.7	2.04	38.2	2.31	35.9	2.07
6	5-1-1-0	43.0	2.78	37.2	2.28	37.6	2.37	34.2	2.30
7	ひとめぼれ	39.1	2.74	35.0	2.36	34.4	2.38	35.2	1.93
8	7-0-1-1	41.0	3.22	36.5	2.21	37.0	2.47	34.6	2.31
9	7-0-2-0	42.6	2.82	36.3	2.32	36.9	2.49	35.2	2.05
10	7-1-1-0	40.9	3.04	38.2	2.45	37.1	2.37	34.7	2.05

注)葉色はSPAD502の計測値

試験年次:平成11年, 幼穂形成期 こいむすび, 7月22日

ひとめぼれ, 7月16日

3) 発表論文等

特になし